令和８年１１月２６日
農推第１３５３－８号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

目次	ページ
発生に注意（12月）【あぶらな科野菜（キャベツ等）：菌核病、野菜類：シロイチモジヨトウ】	1
野菜【ねぎ、あぶらな科野菜、野菜類】	2～4
水稲（越冬対策）	4～5
果樹（越冬対策）【みかん、ぶどう、もも】	5～6

発生に注意（12月）

あぶらな科野菜（キャベツ等）：菌核病

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。



キャベツで発生した菌糸と菌核

特徴

- ◆ 暖冬・多雨時に発生が多い。
- ◆ 発生初期は、キャベツでは地面に近い下葉の基部に水浸状の病斑ができ、やがて結球部にも拡大する。
- ◆ 病気が進むとネズミの糞のような黒い菌核ができ、土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、見つけ次第菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生が予想される時期に、**セイビアーフロアブル20**（キャベツ、ブロッコリーなど）、発生が見られたら**ベンレート水和剤**（キャベツ、ブロッコリーなど）、**スクレアフロアブル**（キャベツ、ブロッコリー）等を散布する。
- ◆ 多発ほ場では、菌核病が発生しやすいあぶらな科野菜やレタスなどを連作しない。
- ◆ 水稲との輪作は防除効果がある。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜類：シロイチモジヨトウ



幼虫

特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、しゅんぎく、あぶらな科野菜、まめ類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ ねぎでは葉身内に食入し、薬剤が届きにくくなるので、卵塊の除去及び集団でいる発生初期（若齢幼虫期）に防除を行う。
- ◆ 発生を認めたら、**ディアナSC**（ねぎ、ブロッコリーなど）、**コテツフロアブル**（ねぎ、キャベツ、ブロッコリー）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜

ねぎ

ネギアザミウマ（えそ条斑病）



えそ条斑病の発病葉と
ネギアザミウマ成虫

特徴

- ネギアザミウマは、高温で少雨の時に多発しやすい。
- ネギアザミウマは葉を吸汁し、加害部は白く色が抜ける。
- えそ条斑病は、ネギアザミウマが媒介するIYSV（アイリスイエロースポットウイルス）によるウイルス病である。はじめ、葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、進行すると病斑が拡大して融合し、葉が萎凋・枯死することがある。

防除のポイント

- ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するネギアザミウマの防除を徹底するとともに、発病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- IYSVは一部の雑草にも感染するので、ほ場内や周囲の除草を徹底する。
- ネギアザミウマの発生を認めたら、**グレーシア乳剤**（アザミウマ類）、**ディアナSC**（アザミウマ類）等を散布する。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

あぶらな科野菜

**※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。**

コナガ



幼虫※



成虫※

特徴

- 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- 発生初期に防除を行う。
- 発生を認めたら、**グレーシア乳剤**（結球あぶらな科葉菜類、非結球あぶらな科葉菜類など）、**アファーム乳剤**（キャベツ、こまつなど）等を散布する。
- 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

野菜類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

ハスモンヨトウ



幼虫

特徴

◆ あぶらな科野菜、きく科野菜等多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を行う。また、卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
◆ 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、非結球レタスなど）、**プレオフロアブル**（キャベツ、ブロッコリー、しゅんぎく、非結球レタスなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

コナジラミ類（コナジラミ類が媒介するウイルス病）



コナジラミ類が発生した葉＊



タバココナジラミ成虫※

特徴

◆ 現在、府内のなすやトマトなどで発生が見られるのは、ほとんどがタバココナジラミである。
◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。
◆ 多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
◆ タバココナジラミはウイルス（CCYV※1、TYLCV※2、ToCV※3）を伝搬する。

※1　キュウリ退緑黄化病の病原ウイルス
※2　トマト黄化葉巻病の病原ウイルス
※3　トマト黄化病の病原ウイルス

防除のポイント

◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、成虫の侵入を阻止する。
◆ 施設周辺及び内部の除草を徹底する。
◆ ウイルス病の感染株は、施設外へ持ち出し処分する。
◆ ウイルス病に対する治療方法はないので、ウイルスを媒介するタバココナジラミの防除を徹底する。
◆ 施設栽培では栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設内を除草したのち、2週間以上密閉して、タバココナジラミを餓死させる。
◆ 定植時には**スタークル／アルバリン粒剤**（なす、トマト、ミニトマト）、**プリロッソ粒剤オメガ**（なす）等を施用する。
◆ 発生を認めたら**ベストガード水溶剤**（なす、トマト、ミニトマト、きゅうりなど）、**アグリメック**（なす、トマト、きゅうりなど）等を散布する。
◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
◆ 栽培終了後から残さ撤去までにコナジラミ類やアザミウマ類のまん延防止を目的として**キルパー**を使用する。ただし、この場合、処理後に作付けできる作物の種類は限られるので登録をよく確認する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

アブラムシ類



ニセダイコンアブラムシ

特徴

- ◆ 葉裏に寄生するため、発生初期に気づきにくい。
- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。
- ◆ ネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉が黒く汚れる。
- ◆ 各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**モスピラン顆粒水溶剤**（キャベツ、しゅんぎく、非結球レタスなど）、**トランスフォームフロアブル**（ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、非結球レタスなど）、**ウララDF**（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類、非結球レタス、しゅんぎく、など）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

その他　注意すべき病害虫

水稲（越冬対策）

**病害虫の越冬数を低減し、
来春以降の発生量を抑制しましょう。**

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）



成貝



卵塊

特徴

- ◆ 低温耐性は強くないが、府内では越冬が可能である。
- ◆ 主に田植え直後（約20日後まで）の苗が食害され、欠株になる。成長した稲（5葉期以降）は食害されにくいが、個体数を減らすことが重要である。

防除のポイント

- ◆ 冬期に耕うんを行う。越冬個体は地表から深さ6cm以内に分布しており、ロータリーによる耕うん（ロータリー回転数を上げて、浅く耕起）を行い、土中に潜った貝を粉砕したり、地表で寒気にさらし凍死させる。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が混じり、他の水田へ移動させてしまうことがあるので、移動の際は器具についた土をしっかり落とす。
- ◆ 冬期に水路の泥上げを行い、泥中で越冬している貝を駆除する。

「スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）生態と防除」（令和7年5月発行）もご参照ください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/documents/91954/r7sukumiringogai-osaka.pdf

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



縞葉枯病（ひこばえでの病徴）

特徴

◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
◆ 発病した株をヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。
◆ 本田初期に発生すると、新葉が細くなり巻いて垂れ下がって枯れ、「ゆうれい症状」と呼ばれる状態になる。本田後期の感染では、黄緑色の条斑を生じ、出穂が異常となって出すくみ症状を起こす。
◆ 本府の主力品種ヒノヒカリ、きぬむすめ、キヌヒカリはいずれも本病への抵抗性がないため発病に注意が必要である。

防除のポイント

◆ 発病を防ぐには媒介するヒメトビウンカを防除する必要がある。
◆ ヒメトビウンカは成虫で越冬するため、冬～春期に畦畔の雑草を刈り取り、越冬密度を下げることが重要である。
◆ ウイルスに感染したひこばえは、本病の伝染源となる恐れがあるので、放置せず刈り株をすきこみ処分する。

果樹

みかん（越冬対策）

ミカンハダニ



被害葉

特徴

◆ 果実や葉に寄生し、吸汁する。吸われた部分は、色が抜けて白くなる。
◆ 日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多発する。
◆ 冬期は低温のため、増殖は抑えられるが生息はしている。春になり暖かくなると、増殖を開始する。

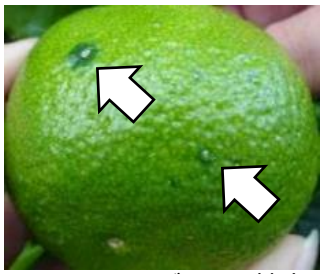
防除のポイント

◆ 収穫後の園では、12月中～下旬にマシン油剤（**機械油乳剤95・マシン油乳剤95**（かんきつ、ハダニ類の越冬卵）等）による防除を行う。
※樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油剤で薬害（落葉助長）が生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
（https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html）
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

カイガラムシ類



ナシマルカイガラムシ被害



フジコナカイガラムシ被害※

特徴

◆ 葉や枝、果実に寄生し、多発した場合は、樹勢が落ち、果実の商品価値を低下させる。

防除のポイント

◆ 収穫後の園では、12月中～下旬にマシン油剤（**機械油乳剤９５**（かんきつ、ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ）、**ハーベストオイル**（かんきつ）等）による防除を行う。
※樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油剤で薬害（落葉助長）が生じやすいので、３月中～下旬に成分９７%製剤のマシン油剤（**ハーベストオイル**等）を散布する。
◆ 樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。

ぶどう（越冬対策）

カイガラムシ類



クワコナカイガラムシ＊

特徴

◆ ぶどうでは、フジコナガイガラムシやクワコナカイガラムシ等が加害する。
◆ フジコナカイガラムシは幼虫、クワコナカイガラムシは卵のうで越冬する。

防除のポイント

◆ 越冬期に粗皮削りを行い、越冬密度を下げる。

もも（越冬対策）

カイガラムシ類



ウメシロカイガラムシ＊

特徴

◆ ももでは、ウメシロカイガラムシとクワシロカイガラムシ（白色～灰白色）、ナシマルカイガラムシ（黒色～茶褐色）等が加害する。
◆ 越冬期には、ウメシロカイガラムシやクワシロカイガラムシは成虫が、ナシマルカイガラムシは幼虫が、枝に寄生している。

防除のポイント

◆ マシン油乳剤（**機械油乳剤９５**（カイガラムシ）、**ハーベストオイル**（カイガラムシ類）等）による防除が遅くなると薬害の危険性があるので、２月上旬までに行なう。
◆ マシン油乳剤を散布した後は、石灰硫黄合剤の付着が悪いので、少なくとも１ヶ月の間隔をおいて散布する。

※原図：（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所
＊原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑（大阪府植物防疫協会）
無断転載を禁ずる。

病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(https://www.pref.osaka.lg.jp/o120090/nosei/byogaicyu/index.html)
農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。